

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 24 日現在

機関番号：37111

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21792351

研究課題名（和文） 住民組織におけるメンバーの活動意欲向上を目指した支援モデルの開発

研究課題名（英文） Development of a support model aiming to improve motivation of members of community organizations

研究代表者

山田 小織（YAMADA SAORI）

福岡大学・医学部・助教

研究者番号：60369080

研究成果の概要（和文）：

本研究では、質的研究・量的研究を組み合わせることによって、住民組織メンバーの活動意欲に関連する保健師の支援内容が、【レディネスへの支援】【活動展開への支援】【地域発展への支援】【主体性への支援】で構成されることを明らかにした。また、これらの支援内容に対する保健師の自己評価については、経験年数により有意な差がみられた。本研究で開発した支援モデルを有効に活用していくためには、保健師の現任教育プログラムの確立が必要である。

研究成果の概要（英文）：

By combining qualitative and quantitative studies, it was clarified in this study that support to public health nurses relating to motivation of members of community organizations is comprised of “support for readiness,” “support for development of activities,” “support for community development” and “support for independence.” Significant differences were observed depending on the years of experience as a PHN in regards to evaluations on these types of support. It is necessary to establish ongoing education programs for public health nurses in order to effectively utilize the support model developed in this study.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
総計	1,600,000	480,000	2,080,000

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：看護学 地域・老年看護学

キーワード：保健師 住民組織

1. 研究開始当初の背景

我が国の保健師らは、これまでに数々の住民組織を形成・支援し、個人・集団、地域における相互作用の仕組みを形成してきた。し

かしながら、研究開始当初、長年に亘って保健師らが積み重ねてきた住民組織への支援実績については具体的報告が少なく、活動展開における方法論や実践技術について詳細

に示されていなかった。また、保健師が支援する住民組織の種類や特徴、支援の枠組みと評価指標の整理は進められていたが、住民組織メンバーの活動意欲向上を目指した支援モデルの開発には至っていなかった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、住民組織におけるメンバーの活動意欲向上を目指した支援モデルを開発することである。この研究目的を達成するために、以下の研究目標を設定した。

(1) 住民組織メンバーの活動意欲に関連する保健師の支援内容を明らかにする。

- ・住民組織メンバーの活動意欲の要因とその構造を明らかにする。
- ・保健師の住民組織メンバーに対する支援内容を明らかにする。
- ・住民組織メンバーの活動意欲に関連する保健師の支援内容を明らかにする。

(2) わが国における住民組織の活動形態と保健師の支援状況を明らかにする。

(3) 住民組織メンバーへの活動意欲向上支援に対する保健師の評価を明らかにする。

(4) 保健師による活動意欲向上支援に対する住民組織メンバーの評価を明らかにする。

3. 研究の方法

研究方法として、まずA組織を対象として、調査1、調査2を計画した。

A組織とは、2004年に行政が新たな健康戦略として発足させた住民組織であり、メンバーは行政が委嘱するが、その運営及び活動における企画-実施-評価をメンバー主体（住民主体）で行う形態を成している。

調査1では、A組織におけるメンバーの活動意欲の要因やその構造を明確にすることを目的として質問紙調査（全29回）と半構造化面接を行った。調査対象は、A組織メン

バー12名とした。

調査2では、A組織における保健師の支援内容を明らかにすることを目的として参加観察（全29回）を行った。調査対象は、A組織メンバーを支援する保健師2名とした。

調査1と調査2の結果を受け、住民組織メンバーの活動意欲に関連する保健師の支援内容（以下、活動意欲向上支援項目）を整理し、その内容妥当性を検証する為に、調査3として住民組織（B～G組織）を支援する保健師6名に対し、半構造化面接を実施した。

さらに、わが国において主体的に活動する住民組織の種類や名称、保健師の支援状況、活動意欲向上支援項目の構造と保健師の自己評価を明らかにする為に、調査4として全国の市町村保健センター（1822施設）と保健所（517施設）に勤務する保健師を対象とし、郵送法による質問紙調査を実施した。調査対象者は、以下6つの条件に該当する住民組織の支援経験者とした。

- ・地域の健康課題解決を目的とする。
- ・行政がメンバーを招集・委嘱することで発足している。
- ・メンバーが固定している。
- ・住民組織の運営はメンバー主体である。
- ・メンバー自らが地域住民を対象に健康づくりに関連した活動を実践する。
- ・住民組織活動の内容はメンバーが主体的に決定する。

質問項目は、個人属性、支援体制と保健師の認識、活動意欲向上支援項目に対する自己評価（重要度・達成度）とした。個人属性を除く項目はすべて5段階評定とした。

尚、活動意欲向上支援項目は以下の30項目とした。

- ・メンバーの発言力や行動力を把握する
- ・メンバーの地域活動の経歴を把握する
- ・メンバーに活動の趣旨や意義を説明する
- ・メンバーに（メンバーとして）選定された理由を説明する
- ・メンバーと共に地域の健康課題を確認しあう
- ・メンバー同士が相互に理解しあえる機会をつくる
- ・メンバーそれぞれに役割を与え、責任をもたせる
- ・メンバーと保健師とが相互に理解しあえる機会をつくる
- ・メンバーを個別にフォローしたり、相談に応じる
- ・メンバーが行う会議や活動に参画する
- ・メンバーに他の先進的な活動例などを紹介する
- ・メンバーに活動の進め方やポイントについて説明する
- ・メンバーに活動によって期待できる効果（成果）を説明する
- ・メンバーの能力を評価し、活動の実践が可能であることを説明する
- ・メンバーが専門家から助言を受ける機会をつくる
- ・メンバーの活動に必要な知識や技術を提供する
- ・メンバーの活動に必要な資源（社会資源・資金・会場等）との仲介・調整を行う
- ・メンバー全員の意見や考えを引き出す
- ・メンバーが効率よく話し合いができるようリードする
- ・メンバーの自主性を尊重する
- ・メンバーに活動に関する決定権を与える
- ・メンバーと共に活動の経過を確認しあう
- ・メンバーに活動に関連する新しい情報を提供する
- ・メンバーが行う会議や活動の形態に変化をもたせる
- ・メンバーが活動における地域住民の反応や評価が得られるような機会をつくる
- ・メンバーの努力を認め、称賛する
- ・メンバーと共に活動によって得られた結果（成果）を確認しあう
- ・メンバーによる活動と既存の事業とに繋がりをもたせる
- ・メンバーの活動に関連する新たな社会資源を開拓・発掘する
- ・メンバーの活動状況を地域住民に広く知らせる

さらに調査5として、保健師による活動意欲向上支援項目に対するメンバーの評価を明らかにする為に、住民組織メンバー200名を対象として、郵送法による自記式質問紙調査を実施した。

質問項目は、個人属性、地域活動に対する意識及び生活満足度、住民組織活動に対する意識・活動意欲と活動意欲要因、活動意欲向上支援項目に対する認識（重要度）とした。個人属性と活動意欲を除く項目はすべて5段階評定とした。

4. 研究成果

(1) 住民組織メンバーの活動意欲に関連する保健師の支援内容（調査1～調査3）

① 住民組織への保健師の支援内容は、『レディネスの把握』『合意形成』『ニーズの

確認』『緊張感の緩和』『メンバーシップの形成』『パートナーシップの形成』『イメージづくり』『スキル開発』『資源の提供・調整』『協議の推進』『主体性の喚起』『活動経過の確認』『活動への刺激』『活動の肯定的評価』『ネットワーク化』の15サブカテゴリーを成し、これらは【レディネスへの支援】【活動展開への支援】【地域発展への支援】の3カテゴリーで構成していた。

② メンバーの活動意欲要因は、＜必要性の実感＞＜連帯感＞＜効果の実感＞＜実践可能感＞＜自己決定感＞＜進展感＞の6サブカテゴリーを成し、これらは《活動の価値》《活動の期待》の2カテゴリーで構成していた。

③ 『レディネスの把握』『緊張感の緩和』の2つのサブカテゴリーは、メンバーの活動意欲に間接的に、その他の13サブカテゴリーはメンバーの活動意欲に直接的に影響していた。『レディネスの把握』『緊張感の緩和』は、他の13サブカテゴリーの支援内容を効果的に実施するうえで基盤となる位置づけにあった。

④ 住民組織のメンバーは、保健師の【レディネスへの支援】の『合意形成』『ニーズの確認』によって＜必要性の実感＞を得て、『メンバーシップの形成』『パートナーシップの形成』によって＜連帯感＞を抱いていた。また、保健師の【活動展開への支援】の『イメージづくり』『スキルの開発』『資源の提供・調整』によって、活動に対する＜実践可能感＞を高め、『協議の推進』『主体性の喚起』によって＜自己決定感＞を得ていた。さらに、【地域発展への支援】の『活動経過の確認』『活動への刺激』によって活動に対する＜進展感＞を抱き、『活動の肯定的

評価』『ネットワーク化』によって＜効果の実感＞を得ていた。

(2) 住民組織メンバーの活動意欲向上支援に対する保健師の自己評価（調査4）

- ① 全国の市町村保健センター及び保健所への送付数 2,339 に対して、777 施設（回収率 33.2%）からの返送が得られ、このうち 919 を有効回答とした。回答者の所属機関は市町村保健センターが 83.1%、保健所が 15.6%であり、所属機関の人口規模は 5 万～10 万未満が最も多かった。性別については、女性 98.4%で男性 1.4%、年齢は、23 歳～60 歳の範囲であり平均 40.27 歳、勤務形態では常勤が 99.3%であった。また、保健師経験年数は 1～38 年の範囲であり、平均 17.08 年であった。
- ② 活動意欲向上支援項目の重要度について平均値、標準偏差を算出したところ、項目全体の平均値は 4.27、標準偏差 0.43 であった。各項目をみると、重要度の平均値は 3.72～4.64 の範囲にあり、保健師はメンバーの活動意欲向上させるうえで活動意欲向上支援項目を重要な項目として判断していた。
- ③ 活動意欲支援項目の達成度について平均値、標準偏差を算出したところ、項目全体の平均値は 3.40、標準偏差は 3.43 であった。各項目をみると、達成度の平均値は 2.76～4.08 の範囲にあり、天井効果、床効果はみられなかった。
- ④ 保健師の活動意欲支援の達成度とは、【レディネスへの支援】【地域発展への支援】【活動展開への支援】【主体性への支援】の 4 因子（活動意欲向上支援下位項目）で構造化されていた。

⑤ 活動意欲向上支援下位項目は、有意な正の相関を示し、Cronbach' α 信頼係数を算出したところ、いずれも高い値であった。保健師の活動意欲向上支援に関する総合評価とも有意な正の相関を示していた。

⑥ 活動意欲向上支援項目における重要度と達成度の平均値を算出し、これらを保健師経験年数別に比較したところ、重要度では有意差がみられず、達成度では新任期と後期中堅期及びベテラン期とで有意差 ($p < 0.001$) が、また前期中堅期とベテラン期においても有意差 ($p < 0.01$) がみられた。

⑦ 活動意欲向上支援下位項目の平均値を保健師経験年数別で比較してみると【主体性への支援】では有意差はみられず、【レディネスへの支援】では、新任期と後期中堅期及び新任期とベテラン期とで有意差 ($p < 0.001$) がみられ、前期中堅期とベテラン期においても有意差 ($p < 0.01$) がみられた。【地域発展への支援】では、新任期とベテラン期において有意差 ($p < 0.001$) が、新任期と後期中堅期及び前期中堅期とベテラン期とで有意差 ($p < 0.05$) がみられた。【活動展開への支援】については、新任期は前期中堅期 ($p < 0.05$)、後期中堅期とベテラン期 ($p < 0.001$) のいずれにおいても有意差がみられた。

(3) 保健師による活動意欲向上支援に対する住民組織メンバーの評価（調査5）

① 質問紙送付数 280 に対して、有効回答数は 196 (70.0%)、回答者の性別は、男性 98 名 (50.0%) 女性 98 名 (50.0%)、平均年齢は 61.76、平均居住年数は 30.9

であった。

- ② 地域活動に関する意識については、「地域に対して愛着がある」の平均値が 4.40、「地域の人の役に立ちたいと思う」が 4.35、「リーダーシップを発揮したい」が 3.26、「これまでの人生経験や能力を地域で生かしていきたい」が 3.91 であった。「現在、私生活が充実している」は 4.24 であった。
- ③ 住民組織活動に対する意識については「活動が楽しい」の平均値が 3.70、「活動の負担が大きい」が 2.50、「外的報酬を得たい」が 1.85、「活動を継続していきたい」が 3.80 であった。
- ④ 活動意欲要因の中では、「活動の必要性が理解できている」が 4.11 と最も高く、「活動が進展している」は 3.54 と最も低かった。
- ⑤ 活動意欲向上支援項目に対する重要度については、「メンバーの活動を地域住民に広く知らせる」が 4.18 と最も高く、次いで「活動に関連する新しい情報を提供する」が 4.12、「メンバーと共に活動の経過を確認しあう」が 4.10 であった。住民組織メンバーは、保健師による【活動発展への支援】を重要視していることが明らかになった。

(4) 住民組織意欲向上に関する保健師の支援モデル

本研究では、住民組織メンバーの活動意欲に関する保健師の支援とその構造を明確にすることができた。これらは、今日の住民組織の支援において活用あるいは応用が可能な知見と考える。

保健師は、【レディネスへの支援】として、地域診断によつて的確に地域の健康課題をアセスメントし、メンバーらと共にそれを確

認しあっていた。また、【活動展開への支援】として、メンバーとのパートナーシップを意識しながら、相談及び教育・普及啓発に係わる支援を実施しており、これらの活動展開が進んだ時点で、【地域発展への支援】として、メンバーによる住民組織活動を保健計画の一部として位置づけ、その活動成果を住民と共に評価し、さらには、住民組織が地域保健システムとして機能することを目指して、社会資源との調整などネットワーク化を図っていた。

これらの支援は、実態把握（地域診断）、計画策定と評価、相談・支援、教育・普及啓発、調整・ネットワーク、システム化・施策化など、保健師として必要な技能をすべて含んでいることがわかる。つまり、住民組織メンバーの活動意欲を向上させるうえでは、保健師が総合的に自らの技能を磨いていくことが必須といえる。

地方分権の時代において、地方公共団体が住民の期待に応える行政運営を行うためには、職員の資質向上がきわめて重要といわれている。当該分野においても、この数年で、保健師に必要な能力とその能力を開発するしくみや現任教育強化の基本的考え方が示されるようになった。しかしながら、保健師の分散配置が進み、業務の多忙さとあいまって、職場での人材育成の体制が不十分な状態にあり、これらの組織的な整備は進んでいない状況にある。特に、新任期の保健師は住民組織への支援に必要性は感じながらも、技術に関して自信がなく、基礎教育修了時の能力と現場で即戦力として求められる能力とのギャップを感じている。

今回開発した支援モデルの活用に向けて、基礎教育においては、【レディネスへの支援】や【主体性への支援】の重要性を十分理解したうえで、教育あるいは相談などの対人支援

能力の向上を高め、現任教育においては、新任期に【活動展開への支援】として、集団をファシリテートする能力、中堅期では、社会資源のコーディネートやマネジメントなどの地区管理を伴う【活動発展への支援】能力を高めるなど、基礎教育と現任教育とが連動した段階的な教育プログラムを構築することが必要と考える。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計2件)

①山田小織, 守田孝恵, 伊藤直子, 住民組織における保健師の支援内容とメンバーの活動意欲, 保健医療科学, 査読有, 59 (2), 2010, 159-168

②山田小織, 守田孝恵, 住民組織メンバーの活動意欲向上に関する保健師の支援構造と自己評価, リハビリテーション連携科学, 査読有, 11 (1), 30-39, 2010

[学会発表] (計2件)

①Saori Yamada, Takae Morita, Hideo Yamazaki, Minako Danbara, Mihoko Koshida, The activities of the community organizations and PHN's supports for them in Japan, 19th International conference on Safe Communities Sustainability on Safe Community, 2010年3月23日~26日, Korea

②山田小織, 守田孝恵, 保健師経験年数区別にみた住民組織支援に関する自己評価, 日本公衆衛生学会, 2009年10月21日~23日, 奈良

③Saori Yamada, Takae Morita,

Hideo Yamazaki,
Support services provided by public health nurses to community organizations in Japan, The 4th international conference on community health nursing research, 2009年8月16日~20日, Australia

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山田 小織 (YAMADA SAORI)
福岡大学・医学部・助教
研究者番号: 60369080